

郵便
報知新聞
第五百九十六号

親の子と思ひ見まこと親が慕ふ人女を
謂ふは情合ふ事と云ふと云ふ去年九月
中旬の頃とか下総国松戸駅より渡船場の
河岸に三匹の巨大組を絞つて喰ひ合ふこと
烈しく近邑の里人往還の旅客等皆其の
集ひて何れも勝敗を決するものと肩頭を
伸べて見物せし兩大頗る強勢なること獅
子奮闘の争ひたるが何れより足のかげ忽然
と走來り一犬の脊を跳上ると均しく耳頭を
痛く喰ひたり強と弱と不意に打れ落し遠
き處に對する大へ飛掛て喰ひたりと云ふ母
猫大の為み喰殺さるゝ俱々天の戴するの
復讐と思ひ必死と極めて加勢せし報恩
と云ふれざる畜類み於てあや

花々奔々誌



南奥町十四番地
月岡米次郎画
小舟町三丁目
上番地熊谷庄七

大徳
社井
牙彦